

収録雑誌例

◆ <b>風俗草紙</b> 1953年7月～1954年10月 第1号～第2巻第8号	13冊	◆ <b>怪奇雑誌</b> 1949年4月～1952年11月 爛漫号～特大号	26冊
◆ <b>現代読本</b> （風俗草紙臨時増刊） 1954年6月 創刊号	1冊	◆ <b>奇抜雑誌</b> 1949年4月～1951年9月 第1号～第3巻9号	8冊
◆ <b>風俗科学</b> 1953年8月～1955年3月 創刊号～第3巻第3号	19冊	◆ <b>青春タイムス</b> 1952年9月 第5巻第9号	1冊
◆ <b>風俗クラブ</b> （春光社） 1954年3月～1954年4月 第1巻第1号～第1巻第2号	2冊	◆ <b>青春ロマンス</b> 1950年1月～1952年11月 第3巻第1号～第6巻第11号	12冊
◆ <b>風俗クラブ</b> （風俗研究社） 1960年2月 創刊号	1冊	◆ <b>読切ロマンス</b> 1951年8月～1952年7月	8冊
◆ <b>人間探究</b> 1951年5月～1953年5月 増刊第11号～5月号	5冊	◆ <b>内外特報</b> 1953年8月～〔1953年〕11月 8月下旬号～11月30日号	6冊
◆ <b>りべらる</b> 1949年5月～1955年4月 第4巻第5号～第10巻第5号	8冊	◆ <b>奇抜探究</b> 1952年8月 特大号	1冊
◆ <b>漫画タイム</b> （りべらる増刊） 1955年8月 第10巻第10号	1冊	◆ <b>別冊 怪奇世界</b> 1951年1月 新年号	1冊
◆ <b>千一夜</b> 1950年1月～1953年11月 第3巻第1号～第6巻第11号	31冊	◆ <b>怪奇秘話</b> 1953年 自慢物識号	1冊
◆ <b>真相実話</b> 1949年5月～1952年10月 第1巻第1号～第4巻第10号	40冊	◆ <b>オール・ロマンス</b> 1951年3月 第4巻第3号	1冊
◆ <b>デカメロン</b> 1951年1月～1955年3月 第5巻1号～第5巻4号	26冊	◆ <b>読切雑誌 臨時増刊 実話と奇譚</b> 1958年3月 第9巻第4号	1冊
◆ <b>内外旬報</b> 1954年5月30日～1955年6月20日	8冊	◆ <b>風俗奇譚</b> （臨時増刊） 1960年3月～1972年10月 春の臨時増刊号～10月臨時増刊	38冊
◆ <b>旬刊タイムス</b> 1954年6月25日～1954年7月25日	2冊	◆ <b>画報風俗奇譚</b> 1960年5月～1961年10月 〔第1集〕～第17集	18冊
◆ <b>夜よむ新聞</b> 1954年7月1日～1955年5月15日	9冊	◆ <b>風俗奇譚</b> 1960年1月～1973年7月 臨時特集号～1973年7月号	146冊

\*収録内容は予告なく変更の可能性がございます。  
\*原則として原本の裏付に記載された刊行年月、巻号を示しています。国立国会図書館をはじめ、国内の図書館にまともな所蔵がない巻号を中心に収録しております（収録年代は完備を示すものではありません）。



# 社会文化史データベース

## 性風俗稀少雑誌コレクション

原本所蔵：三橋順子（性社会・文化史研究者／明治大学非常勤講師）  
解題：三橋順子、石川巧（立教大学教授）

価格 ¥400,000 (税別)

プラットフォーム：J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター  
完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）

<1ヶ月の無料トライアル受付中、お申し込みは [kenkyushien@maruzen.co.jp](mailto:kenkyushien@maruzen.co.jp) まで>（お申し込みは学術機関に限ります）

### 1950年代から70年代に刊行された大衆娯楽・性風俗雑誌 400冊以上を横断的に利用できるデータベース

第二次世界大戦後、出版規制緩和により夥しい数の大衆娯楽雑誌が刊行された。戦後占領期の「カストリ雑誌」についてはメリーランド大学ブランゲ文庫等の資料を中心に研究が進められてきたが、GHQによる検閲が終了した1950年代以降、70年代初頭までの出版物はまともな所蔵が少なく、全貌の把握も困難な状況が続いていた。この度収録するタイトルも、網羅的に所蔵している図書館等はなく、いずれも通覧が難しいものばかりである。小説、芸能・映画情報をはじめ、同性愛、異性装、サディズム、マゾヒズム等を題材とした論文やエッセイ、読者投稿欄や文通欄など、収録記事は多岐にわたる。また、売春防止法制定前後の全国の歓楽街、「赤線」等に関するルポルタージュや地図も多く含む。雑誌名、巻号、発行年月での閲覧はもとより、記事名、執筆者名、出版社名等での検索も可能とし、膨大な記事にスムーズにアクセスできるようになる。

史料の空白を埋める雑誌アーカイブであり、ジェンダー、セクシュアリティ、近現代史、近代文学、出版文化史など、複数の分野で新たな地平を拓くデータベースである。



丸善雄松堂株式会社 学術情報ソリューション事業部 企画開発統括部  
〒105-0022 東京都港区海岸1-9-18 国際浜松町ビル TEL.03-6367-6025 FAX.03-6367-6188 e-mail [kenkyushien@maruzen.co.jp](mailto:kenkyushien@maruzen.co.jp)



# 社会文化史データベース

## 性風俗稀少雑誌コレクション

丸善雄松堂株式会社

# 戦後日本の大衆娯楽・性風俗を映す貴重な雑誌アーカイブ

- ◆ 1950～70年代の稀少な大衆娯楽・性風俗雑誌400冊以上を収録
- ◆ 小説、エッセイ、ルポルタージュ、読者投稿欄など、1万件に及ぶ記事に自在にアクセス
- ◆ 雑誌名、巻号、発行年月からの閲覧はもちろん、作品・記事名、執筆者名、出版社名等での検索も可能

## 小説

## 映画情報

## エッセイ



「内外旬報」1955年6月20日号



「真相実話」第4巻第8号（1952年8月）



「風俗奇譚」1961年2月号／1971年12月号

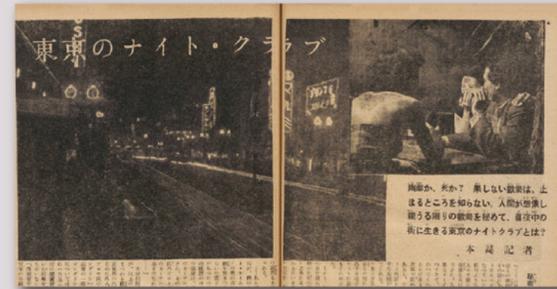


「風俗科学」第2巻第12号（1954年12月）



「風俗科学」第3巻第2号（1955年2月）

## ルポルタージュ



「りべらる」第9巻第3号（1954年3月号）



「りべらる」第7巻第8号（1952年7月号）



「千一夜」第4巻第9号（1951年9月）



「内外旬報」1955年6月20日号

## 読者投稿欄



「風俗科学」折込 第2巻第7号（1954年7月）



「風俗奇譚」読者投稿欄・規定等 1963年5月号／1970年9月号

## パイオニア精神ただよう稀少雑誌コレクション

国際日本文化研究センター所長 井上章一

たいていのテーマには、学説史の積み重ねがあるもので、そこをおいけていけば、読むべき史料も、見えてくるでしょう。どういふ文献に目をおせばいいか。その見極めも、つくのではないのでしょうか。

また、議論的となってきたテーマなら、水先案内の読み物も見つけやすい。電脳媒体での検索手順も、どこのついでに読むのではないのでしょうか。大きな図書館へいけば、手足れの司書に、いろいろ教えてもらえそうな気がします。

しかし、講壇的な学術体制が光をあてなかったテーマは、べつです。あまり研究されてこなかったのが、学説史がありません。史料検索の筋道も、なかなか見とおせないでしょう。

性風俗とかかわることどもも、そういう課題の一つにあげられます。社会的には重大な意義がある。興味もいだけられる。ですが、様子ぶる学界人たちは、こういうテーマか

ら目をそむけてきました。興味本位におちいつてはいけないうと、言い聞かせあったりして。こうして、ほんとうは興味深い問題が、おきざりにされてきたのです。

三橋さんは、いわゆる女装者の歴史を、おいかけてこられました。とりわけ、その現代史に関しては、圧倒的な開拓者であったと思います。尊敬もしております。

もとより、検索の目安があらかじめととのっていたようなテーマではありません。水先案内など、どこにもないことを調べてこられました。今回披露していただける稀少雑誌コレクションも、その調査であつめられたものです。もちろん、データとしておもしろいことは、うけあいます。しかし、それ以上に、蒐集へこめられているパイオニア精神も、味わってほしい。口はばつたい言い草ですが、そんな文句もそえて、私の推薦文とさせていただきます。

## もうひとつの都市誌へ

立命館大学教授 加藤政洋

揃えることは至難の業だ。『新宿「性なる街」の歴史地理』の著者・三橋順子氏が所蔵する雑誌をアーカイブしたものであるという。氏の蒐集力に敬意を表したい。

かつてドイツの哲学者ヴァルター・ベンヤミンは、パリの都市誌を「殺人と暴動、道路網の血塗られた交差点、ラブホテル、大火事といった……人目につかない深く隠された相貌から組み立ててみる」として構想した。こうした観点から平和国家の首都たる東京の「もうひとつの都市誌」を企図するならば、本コレクションはさまざまな手がかりを与えてくれるはずだ。誌面には地図や絵図、そして写真が思いのほか多く掲載されている。それらはいずれも、失われ、忘却された風景ばかりである。

都市の新たな空間誌を構築しようとするとき、本コレクションは必ずやその起点となるにちがいない。

「東京都を新しく我が平和国家の首都として十分にその政治、経済、文化等についての機能を発揮し得よう計画し、建設することを目的とする」。これは、1950年6月28日に立法された「首都建設法」の文言である。その3日前に勃発した朝鮮戦争の特需によって経済復興への途が一気に開かれ、翌1951年にはサンフランシスコ平和条約が結ばれるなど、当時、日本は新しい局面を迎えていた。

平和国家の首都の足もとでは、時を同じくして、都市社会の裏面とでもいふべき文化空間が萌芽し、地下茎のごとく広く深く根をおろしはじめていたことは、あまり知られていない。すなわち、性風俗のメディア空間である。今回デジタル配信されることとなった『社会文化史データベース 性風俗稀少雑誌コレクション』は、その全貌にせまる格好の資料となろう。現在、古書店のウェブサイトなどで検索すれば、コレクションに収録された雑誌のかなりの量を入手することができる。だが、これほどの体系的なもので

## 「性」の戦後史が、ここから生まれる。

早稲田大学教授 藤野裕子

戦後日本の性風俗雑誌を収集するには、独特の困難がともなう。内容が性風俗なだけに、自治体図書館や大学図書館には、ほとんど所蔵されていない。出版社・発行団体がすでになくなっていることも多い。一つの雑誌を創刊から最終号までそろえようと思うなら、時間と労力と費用をかけて、古書店に出たものをコツコツと買い集めるほかない。それどころか、どの号が最終号なのかさえ、容易にはわからないのだ。

戦後日本のジェンダー・セクシュアリティ史、クィア史の研究者は、そのような努力を重ね、独自に雑誌を収集して分析の材料としてきた。だが、これから先の研究者は、その苦労が大幅に軽減される。このデータベースの登場により、1950年代から70年代にかけての性風俗雑誌の数々に容易にアクセスできるようになるからだ。記事目録をクリックするだけで、PDFとなった記事を読める。国内外から、自らのデバイスで。

ここから何を読み取るかは、ユーザー次第である。女性史・男性史の視点から、売春防止法（1957年施行）前後の性売買について研究しようと思えば、『人間探究』『千一夜』『真相実話』『夜よむ新聞』などの関連記事にアクセスすればよい。同性愛の言説・実践について調べれば、『風俗草紙』『風俗科学』『風俗奇譚』の記事や投稿欄は、格好の研究材料になる。サディズム・マゾヒズムの研究も可能だ。

所蔵者である三橋順子氏は、年月をかけて築いたこの貴重なコレクションを、惜しげもなく提供してくれた。独自の研究スタイルを切り拓いてきた三橋氏の、歴史研究者としての矜持が感じられよう。後進の身としては、三橋氏とは異なる視点から諸雑誌を読み込み、新たな「性」の戦後史を紡ぐことで、その思いに応えたい。ここから多くの研究が生まれ出されることを願う。

# 日本心霊

社会文化史データベース

## 「心霊」を結節点に、医学・宗教・思想・文学各界から多彩な人士が蝟集した稀有な機関紙

株式会社 人文書院 所蔵

# 「日本心霊」デジタルアーカイブ

原本所蔵・編集：株式会社 人文書院

解題：栗田 英彦 (佛教学)



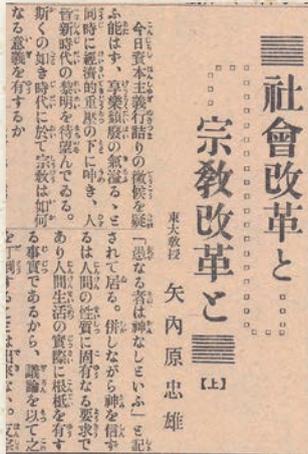
異洲風俗



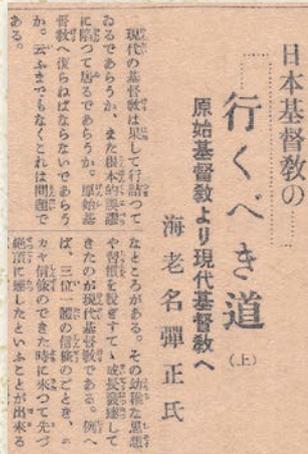




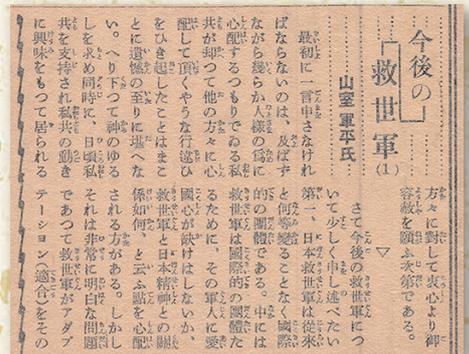
大正6年3月1日



昭和7年7月1日



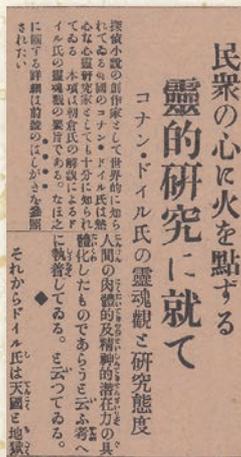
昭和11年3月20日



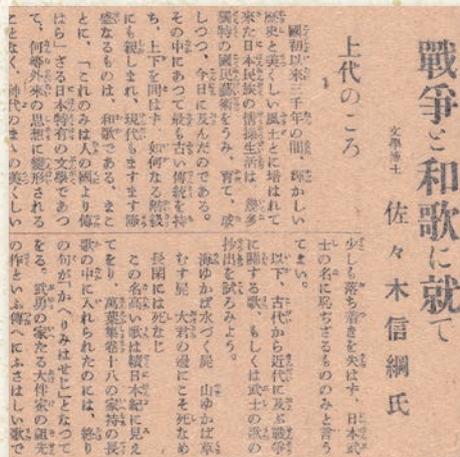
昭和11年5月20日

文学・ジャーナリズム

幸田露伴 佐々木信綱  
長谷川時雨 長谷川如是閑  
倉田百三 土田杏村



大正13年9月10日



昭和13年11月1日



昭和14年2月1日

生命と精神の時代を体感する

横浜国立大学教授 一柳 廣孝

大正時代は生命論がさまざまな領域で取り上げられ、身体と精神の関係性が問われた時代だった。アカデミズムにあってはベルグソンの哲学やヘッケルの生物学に注目が集まり、民間では精神の力にもとづく多様な治療法が実践された。こうした多様な文脈の交差するプラットフォームのひとつが、日本心霊学会の機関紙「日本心霊」だった。同学会は独自の理論にもとづく精神療法（霊術）を実践する団体として活動したが、その規模は数ある霊術団体のなかでも群を抜く。また当時の霊術団体にあつて、ほぼ唯一、定期刊行物を有していたことでも知られる。「日本心霊」からは、霊術家たちのエネルギー活動と彼らの治療によって癒された患者の肉声が立ち上ってくる。そして同紙の価値は、霊術運動の可視化という次元にとどまらない。「日本心霊」の執筆陣としては、催眠心理学の第一人者であり、同学会に理論的な枠組みを提供した福来友吉、独自の生命論を唱

えた永井潜、自らの体験を踏まえた闘病の心得を説く小酒井不木などが代表格だが、他にも賀川豊彦、山室軍平、海老名弾正、矢内原忠雄といったキリスト者や、三木清、倉田百三、紀平正美、波多野精一、石原謙らが連載記事を寄せている。もともと日本心霊学会は浄土宗との結びつきが強く、全国各地の支部は浄土宗系の寺院に置かれていた。しかし「日本心霊」の紙面は、仏教の枠を軽々と超えていく。ここでは理論としての生命論と実践としての精神療法が反響し、結びついている。催眠術や霊術、心霊学のみならず、医学や生物学、心理学、さらには哲学、宗教、文学などの言説がひしめき合い、生命と精神をめぐる特異な言論の場を構築しているのだ。一方、のちに人文書院となる同学会出版部の歩みは、京都を拠点とする出版史の観点からもきわめて興味深い。「日本心霊」は、生命と精神の時代を体感することができる、多面的な宝石箱なのである。

# 「日本心霊」デジタルアーカイブ

原本所蔵・編集：株式会社 人文書院 解題：栗田 英彦（佛教大学）

¥180,000（税別）

プラットフォーム：J-DAC ジャパン デジタル アーカイブズ センター  
完全買切型（ご購入後のプラットフォーム利用料、年間維持費用は不要です）

<1ヶ月の無料トライアル受付中、お申し込みは [kenkyushien@maruzen.co.jp](mailto:kenkyushien@maruzen.co.jp) まで>（お申し込みは学術機関に限ります）

明治後期から大正にかけて全国で数多の精神療法団体が出現し、一大ブームが巻き起こった。なかでも、明治41年に発足した「日本心霊学会」は、全国の寺院をネットワークに心霊治療（精神療法）を行う最大規模の霊術団体として知られる。同学会が発行した機関紙「日本心霊」は、国立国会図書館等にも一切所蔵がなく、幻の資料とされてきた。この度、同学会の後身にあたり、現在は出版社である株式会社人文書院にて、ほぼ揃いの状態で発見された「日本心霊」（大正4年創刊～昭和14年廃刊、約700号）をデジタルアーカイブとして提供する。

「日本心霊」の記事は極めて多岐にわたる。映画「リング」のモデルともいわれる心理学者・福来友吉をはじめ、精神科医・森田正馬、社会運動家・賀川豊彦、哲学者・井上哲次郎、探偵小説作家・小酒井不木など、医学・宗教・思想・文学各界から多彩な執筆陣が名を連ねる。文芸欄や写真、外地を含む各地の会員からの治療報告や投稿も多数含まれ、明治期から始まる催眠術ブームや、霊術団体の思想や活動の実態に迫る、唯一無二の資料として注目される。

発行年月日、見出し、執筆者等での検索を可能とし、2万件以上に及ぶ膨大な記事に自在にアクセスできる。科学史、宗教学、思想史、民俗学、文学、出版文化史など、様々な分野で必見の新史料である。



好評  
発売中

## 社会文化史データベース 横断検索が可能です

### 性風俗稀少雑誌コレクション

価格 ¥400,000（税別）

原本所蔵：三橋順子（性社会・文化史研究者／明治大学非常勤講師）

解題：三橋順子、石川巧（立教大学教授）

1950年代～70年代に刊行された稀少な大衆娯楽・性風俗雑誌450冊以上を収録。小説、エッセイ、ルポルタージュ、読者投稿欄など、1万件以上に及ぶ記事に自在にアクセス。雑誌名、発行年月日だけでなく、記事名、執筆者名、出版社名等での検索も可能。

Ⓜ MARUZEN-YUSHODO 丸善雄松堂株式会社 学術情報ソリューション事業部 企画開発統括部

〒105-0022 東京都港区海岸1-9-18 国際浜松町ビル TEL.03-6367-6025 FAX.03-6367-6188 e-mail [kenkyushien@maruzen.co.jp](mailto:kenkyushien@maruzen.co.jp)